

乙女高原が好き！2203号

深まる秋の乙女高原

夏の間さまざまな活動が行われてきた乙女高原もいつしか季節は進み、マツムシソウ・ノダケ・ハンゴンソウ・アキノキリンソウ・ハバヤマボクチなどの花々も終盤を迎えています。最近ではユーチューブやブログも発信されているので自宅に居ながら高原の様子を楽しめます。でも、高原の香りや冷たい風の感触は現地でしか味わうことができません。是非、深まる秋の乙女高原に足を運んでみてはいかがでしょうか。

遊歩道の草刈りをしました！

7月23日（土） 記事：植原 彰

この時期、草の伸びはすごいもんです。草にこれだけの成長力があるからこそ、アフリカのサバンナでたくさんの大きなけものたちの胃袋を満たせるのでしょうか。

でも、こう伸びられたら、遊歩道を歩く人たちにとっては大迷惑。特に小さな子どもたちは大変です。おまけに主力はススキ。ススキの葉の両側にはガラス質の「歯」が付いているので、歩くだけでもチクチクするし、触って、スルッと手を滑らせたら、それだけで手が切れてしまうこともあります(ま、そうやってススキは草食動物から身を守っているんですけどね)。

それで、毎年、夏休み前に遊歩道内だけを草刈りすることにしています。

9時から開始する予定でしたが、私が8時半にロッジに着いたら、すでに刈り払い機のエンジン音が草原に響いていました。参加者は全部で9人でした。刈り払い機をお持ちの方には、遊歩道内の刈り払いをお願いしました。ロッジの建物のまわりや駐車場、林道の道端の草刈りもしました。あつというまに遊歩道がきれいになりました。作業が終わった遊歩道を歩くと、思わず顔がほころんでしまいます。というのも、作業をした人の「ひいきの草花」がきれいに刈り残されているのです。刈り取ってしまうのが、忍びなかったのでしょうか。そういう私もオミナエシとモリアザミとヤマトリカブトを刈り残してしまいました。すみません。



刈り払い機をお持ちでない方には、遊歩道ロープに開花時期を迎えた植物のカードを吊るしたり、咲き終わった植物のカードを取り外したりしてもらいました。草原内10か所に、草原に咲いている植物を簡単に紹介するカードが吊るしてあります。カードですから取り外しがききます。ですから、咲いている植物のカードだけ吊るすようにしています。

草原内の外来種を抜き取る作業もしていただきました。特にシカ柵が設置されてから、中の外来種が増えたように思います。きっとシカたちは外来種も食べていたのでしょうか。おもにヒメジオンです。これは花を付けているので、わかりやすいです。あと、アレチマツヨイグサも抜きました。こちらはまだ花を付けていないので、探すのがたいへんだし、慣れないと間違いやすいかもしれません。測ったら、生重量が22.2kgでした。翌日も抜き取ったので、それも合わせると計25.7kgです。

終了後、有志でお昼を食べました。

この日は「夏の案内人活動」初日でもありました。午後、角田さんが残って、乙女高原を訪れた方々にお花のパンレットを渡しながらか、少しお話をしていました。

今年もマルハナバチ！

マルハナバチ調べ隊 ～初夏編～

6月26日（日） 記事：植原 彰

マルハナバチ調べ隊も早20年。毎年3回ずつ調べているので、毎年、同じようなパターンを繰り返すのかな、そういった「乙女高原の平均パターン」がわかってくると、それから外れたデータのときに「乙女高原の黄色信号かも」と疑えばいいのかな・・・そんな考えで始めましたが、毎年毎年パターンが違って、「何が何だか

よくわからない」状態です。自然の調査とは、そんなものなのかもしれません。

今回の調べ隊には16人の参加者でした。半数が小学生。楽しい観察になりました。

はじめの会では、今日のスタッフである三枝さん、芳賀さん、植原の紹介をしました。奥平くん(小学校4年生)を新たに乙女高原フェローとして認定。記念のマグボトルをお渡ししました。ちなみに、乙女高原フェローとは「乙女高原ファンクラブの活動に参加してくれた人に渡すスタンプカードのスタンプが10個たまったら、記念品がもらえる」という制度です。紙芝居によるマルハナバチの生態の紹介では、紙芝居をいぶきさん、よしのぶさん、いろはさんの小学生3人・いとこトリオが読んでくれました。3人ともマルハナバチ調べ隊の常連で、マルハナバチの見分け方もばっちり身につけています。



調査用紙を持って、草原内の遊歩道を歩き始めました。ラインセンサス調査の始まりです。レンゲツツジはもう終わりで、替わって、アヤメがきれいでした。なかなかマルハナバチの姿を見ることはできませんでしたが、ようやくアヤメの花にもぐりこむトラマルハナバチの姿を見ることができました。しかも遊歩道のすぐ近くの花だったので、多くの方が間近に見ることができました。しかもしかも、アヤメの花は基本的に3つの花が合体してできている構造なので、今の花から2番目の花、3番目の花、そして、隣の1番目の花、2番目の花…と訪れるので、結構長い間、訪花の様子を見ることができました。後脚の花粉団子は白っぽいペパーミント色でした。アヤメの花粉です。遊歩道から遠いアヤメの花を訪れる様子も観察できました。こんなときは、パピリオ双眼鏡が威力を発揮してくれます。 ※パピリオ双眼鏡は最短50cmでピントがあうので、昆虫観察に最適です。

結局、午前中のラインセンサス調査では、7頭のマルハナバチが観察できました。いずれもトラマルハナバチで、6頭はアヤメで蜜を吸っている様子が、もう1頭は飛んでいる姿を見るだけでした。子どもたちが飛んでいる姿だけ見て「トラだ!」と見分けしている(正解!)のには感心しました。

早めのお昼を食べ、午後からは、マルハナバチ待ち伏せ調査を変更し、ブナじいさんまでの観察ハイクにしました。午前中の調査結果から、待ち伏せ調査をしたとしてもマルハナバチが来ないことが予想されたし(「来なかった」というデータも大切なんですけどね)、午後から雨が降り出しそうな空模様だったからです。

森の中にたくさんのギンリョウソウが咲いているのを見ました。ギンリョウソウもマルハナバチ媒花だそうです。私は今までに1度だけマルハナバチ(トラマルハナバチでした)がギンリョウソウを訪れているのを見たことがあります。マルハナバチがギンリョウソウを訪れている様子をぜひ写真に残したいと思っています。

ブナの森では、道にたくさんの落とし物が落ちていました。葉っぱを上手に巻いていて、ロールキャベツのようです。一人の子が、葉を巻き戻してみたら、中から細長いラグビーボールといった感じの、オレンジ色のきれいな卵が2つ出てきました。双子でした(こういうのを双子って言うのかなあ・・・)。

ロッジ前まで戻ってきて、終了しました。天気のこととあって、早めに終わったので、ロープの植物カードを新しいものに替えたり、アヤメの花数を数えたりしました。

アヤメの花数ですが、

- ・シカ柵内の全遊歩道を歩きながら、遊歩道から見える範囲全部について、アヤメの花数を数える。
- ・つぼみや咲き終わったものは含まない。
- ・遠くに咲いている花については、双眼鏡で確認する。

という方法でカウントしたところ、2,175でした。

じつは、草原のアヤメの花数については、シカ柵が作られる直前の2015年初夏に三枝さんが同じ方法で数えています。18だったそうです。2016年にはだいたいですが100、2017年には1000以上になっていました。そして、2018年には今回と同じ方法でしっかり数え、3,686でした。三枝さんが数えてくれたから、アヤメの花の回復傾向をちゃんと数字で表すことができました。さて、4年前・2018年の3,686と今回の2,175を「どう読むか」??



マルハナバチ調べ隊 ～盛夏編～

8月6日(土) 記事: 井上 敬子

本年度の第2回目のマルハナバチ調べ隊が8月6日(土)に行われました。天気予報は曇りのち晴れ、ところが乙女高原に着くと霧雨が降っていました。三枝さんが早めに来て、ロッジの玄関前に受付の準備をして下さっていました。こんな天気なので、参加者も少ないだろうと思っていたら、ぞくぞくと人が集まってきて、スタッフ5名、お客さん12名、総勢17名という大人数になりました。子どもたちも4名いました。

いつものように始めに、マルハナバチの種類や特徴について三枝さんから説明があり、「マルハナバチの一生」の紙芝居は角田さんが初デビュー、そんなことをしているうちに霧雨も止んで、空も少し明るくなってきました。事前に三枝さんが草原を歩いたらマルハナバチは全くいなかったということでしたが、せっかくなのでラインセ

ンサス調査に出発しました。

草原に入ると、いろいろな花が咲いていました。オオバギボウシ、オミナエシ、タチフウロ、ノハラアザミ、ヨツバヒヨドリ、チダケサシ、コオニユリ、ヒメトラノオ、ヤナギラン、シシウドなどなど。マツムシソウも咲き始めていました。こんなに花が咲いているので、天気の良いればたくさんマルハナバチやチョウ、その他の昆虫が出てくるはずなのですが、花には水滴がついているし、気温は20℃と涼しいため、虫があまりいません。花の説明などしながら、進んで行くと、空がだいぶ明るくなり、暖かくなってきました。すると虫の羽音が聞こえ始め、ハチやアブなどが出てきました。花の説明の時は退屈そうだった子どもたちも、がぜん元気がでてきたようでした。トラマルハナバチ(トラ)の一番人気はノハラアザミです。オオバギボウシに潜り込むトラも見ました。トラは今回の調査でいちばんたくさん見られました。ミヤママルハナバチ(ミー)はノハラアザミ、クルマバナ、ヤマハギにきていました。オオマルハナバチ(オオ)はタチフウロからタチフウロをまわって吸蜜していました。草原のコースからツツジのコースといういつもの調査のコースを1時間ほどかけて戻ってくると、また霧が出てきました。



ロッジ前で調査のまとめ。今回の調査で私が見たのは、トラ10頭、ミヤマ4頭、オオ2頭の計16頭でした。三枝さんは18頭見たとのこと。花粉団子をつけていないマルハナバチが多くて、働き始めたばかりだったのでしょうか。午後のまちぶせ調査は空模様があやしいので、中止となりました。

天気が悪かったけれど、マルハナバチを見ることができてよかったです。美しいアサギマダラを見ることができました。マルハナバチをかわいいねと言う人やお花がきれいと言っている人もいて、楽しいマルハナバチ調べだったと思います。

マルハナバチ調べ隊 ～初秋編～

9月3日(土) 記事: 植原 彰

昨日の笛川小学校5年生自然学習に続いての本日だったので、体はちょっときつかったのですが今日の方が天気が安定する予報だったので安心していたら…朝からパラパラ雨。それで自主的に参加を取りやめた方もいらっしゃいました。結局、角田さんご夫妻、芳賀さんとお孫さんのいろはちゃん、植原の5人でラインセンサス調査をしました。天気は曇りでしたが、薄日が差す時間帯もありました。いつもはだいたい1時間でセンサス・ルートを歩くのですが、今日は他にもいろいろと面白い発見があり、30分以上も超過してしまいました。

一つはキアゲハの幼虫です。毎年この時期、シシウドの葉にいろいろな段階のキアゲハの幼虫が観察できます。隠れることなく葉っぱの上に堂々とたずんでいるので、とても観察しやすいです。小さいのは黒地で、体の真ん中あたりに黒い筋が横に入ります。まるで鳥の糞のようです。大きくなり終齢幼虫になると、ビビッドな緑色と黒のシマシマ模様になり赤いドットがたくさん入る…という刺激的なデザインになります。ノーメイクでこんな模様を持っているのですから、すごいと思います。いろはちゃんが幼虫をツンツンと優しくつつくと、幼虫が「イタイ、イタイ!」と言いながら(?)橙色の角を出します。角はV字型で、細長い風船に空気を詰める感じでふくらみます。おもしろくて、何回かやるうちに、幼虫もくたびれたのか、角を出すのをやめました。



キアゲハ成虫の産卵シーンも見ることができました。キアゲハが葉っぱに止まるとは「違うなあ」といった感じで飛び上がり、また別の葉に止まり…を繰り返します。こうやって幼虫の食草であるシシウドを探り当て卵を産むようです。どうやってシシウドと確認しているのか不思議だったので、帰ってから調べてみると、「成虫は空を飛びながら、(1)複眼でそれらしい植物を探し、(2)近づいて触角で匂いを嗅ぎ、食草らしいと判断したらその葉に止まり、(3)味覚を持つ「感覚毛」と呼ばれる毛が生えた前脚でトントンと葉を叩いて味を確かめて食草だと確認する」のだそうです。脚で味を確かめて卵を産んでいたのですね。不思議だし、すごいなあ。



もう一つの楽しい観察は、ハンゴンソウに付いた虫こぶ。たくさん付いています。一つがピンポン玉くらい大きなものもありました。「中はどうなっているんだろう?」と芳賀さんが割ってみると、強烈なおい。そして、中から、小さな小さな橙色のいもむしが4頭出てきて、超スピードで逃げ回りました。家に帰って調べて見たら、これはハンゴンソウメタマフシとって、タマバエの1種によってハンゴンソウの側芽に作られる虫こぶだそうです。ハンゴンソウには花にも虫こぶができますが、これはハンゴンソウハナタマフシとって、ハンゴンソウハナタマバエによって花または実には作られる虫こぶで、ハンゴンソウメタマフシとは別物のようです。他にも、ヨモギ、ゴマナ、ホタルサイコにも虫こぶが付いていました。

さて、今日のラインセンサスの結果です。

- ・合計 50 頭のマルハナバチに遭遇。マルハナバチが訪花していたのは 6 種の植物。
- ・見られたのはオオマルハナバチのオス蜂 3 頭・不明 2 頭以外すべて働き蜂だった。トピックはオオマルハナバチのオス蜂が見られたこと。
- ・マルハナバチの内訳はオオマルハナバチ 6、トラマルハナバチ 33、ミヤママルハナバチ 11 と、2/3 がトラマルハナバチだった。
- ・訪花植物の内訳は、ノハラアザミ 21、タムラソウ 14、ヤマハギ 12、アキノキリンソウ・キンミズヒキ・マツムシソウ各 1 だった。
- ・マルハナバチ各種の訪花傾向は、以下のようだった。
オオマルハナバチが訪れた植物は 4 種。ノハラアザミ 2、ヤマハギ 2、アキノキリンソウとタムラソウが 1。
トラマルハナバチが訪れていた植物は 5 種。ダントツ多かったのはノハラアザミ 19 頭だった。そのほか、タムラソウ 9、ヤマハギ 3、キンミズヒキ・マツムシソウに各 1 頭だった。
ミヤママルハナバチが訪れていた植物は 2 種。ヤマハギに 7、タムラソウに 4 頭だった。
みんなでお昼を食べ、午後からは古屋さんの写真展を見せていただきました。

生き物たちのつながり

花と昆虫のリンク調査 ～2022 その2～

6月18日(土)

(参加された小学校4年生が感想を寄せてくれました)

6月18日に、おとめ高原で、花と昆虫のリンクちょうさをしました。



全員で5人だったので、3人と2人に分かれて、それぞれのコースを調べました。やり方は、まず100mメジャーをのばして、コースの最後で止めて、まず、右がわをちょうさして、もし、花に虫がきていれば、その目もりを読んで、記ろくします。最後まで行ったら、こんどは左がわをちょうさします。おわったら、10mおきに、おりたたみじょうぎで四角を作って、その中を写真にとります。その作業を午前3回、午後3回やりました。その中にコマルハナバチのオスがいて、植原先生が「とてもめずらしい」と言っていました。

ました。

そして最後に、500円をもらいました。今回のちょうさは、とても勉強になりました。

(角田さんが当日の様子をユーチューブにアップくださっています(右のQRコード))



花と昆虫のリンク調査 ～2022 その5～

9月11日(日) 記事: 植原 彰

植生調査の翌11日は花と昆虫のリンク調査、すなわち訪花昆虫調査でした。宿に高槻先生をお迎えに行き、宿ご主人のご厚意でコーヒーをいただき(ありがとうございます)、乙女高原へ。すでに4人が調査の準備を始めてくださっていました。今日の参加者は高槻先生、井上さん、芳賀さん、篠原さん夫妻、植原の6人でした。いずれも昨日から連日参加です。

100m巻き尺、2m折り尺、ペグなど必要機材をトートバックに入れ、4セット作りました。高槻先生から調査の概要をご説明いただき、4チームに別れて、「遊歩道を歩きながら花に来ていた昆虫を全部記録する」調査を行いました。昨日、花に来ていた昆虫の様子を見ていたので、「今日の調査はすごいことになる」という予感ビンビンにしていました。ゴマナにしろアキノキリンソウにしろノダケにしろ、とにかく訪れている昆虫の数がハンパないのです。巻き尺を伸ばして、植物名と訪花昆虫名を距離と時刻とともに記録していくのですが、調査用紙があれよあれよという間に埋まっていきます。花も多く、それを訪れる虫たちはもっと多いので、脳みそがくたくたになりました。高槻先生からは「花を訪れている虫がいたら、写真を撮って置いて」と言われていたのですが、とてもその余裕はありませんでした。

行きは巻き尺の右側2mを、帰りは左側を見たので、計100m×4mの面積の「花を訪れた昆虫」を記録したことになります。そしたら、10mごとに左右2つの1m×1m方形枠を設置し、その写真を撮りました。この時期の開花の様子をざっくり記録しておくためです。これで1単位の調査がようやく終了です。

午前中は1単位の調査で精いっぱい。ロッジのベンチに戻って、記録用紙をチェックし、書き忘れた項目を書き足したりしました。高槻先生-篠原厚さんチーム、芳賀さん、植原は12時前には調査を終えたのですが、井上さん-篠原ふさんチームは熱心で、待っていてもなかなか来ません。仕方がないので、お昼を先に食べ始め、時

間差で午後の調査を始めることにしました。

井上さん-篠原さんチームの奮闘で、だいぶ調査がはかどったので、午後からは4でなく3チームで調査することにしました。午後3時前には、「ツツジコースの森の中」を除く全ての遊歩道で調査を行うことができました。調査に参加された皆様ご苦労様でした。ありがとうございました。

調査用紙は全部で42枚にもなりました。これをパソコンに入力し、結果をまとめるのですから、高槻先生はこれからがたいへんです。いつもいつもありがとうございます。

*第3回・第4回の調査の様子は右QRコード(高槻先生のブログ)からご覧になれます



第3回(7月)



第4回(8月)

植生調査報告

9月10日(土) 記事: 植原 彰

2015年11月に乙女高原の巨大シカ柵が設置されたのですが、シカ柵設置が乙女高原の植生にどんな変化をもたらすかをモニタリングするために、設置直前の2015年9月からこの植生調査が始まりました。元麻布大学野生動物学研究室の高槻先生のご指導です。

2015年9月、草原内に10本のポールを立てました(ピンクのテープがなびいていますから、よく目立ちます)。ここが調査ポイントです。毎年1回、9月に、これら調査ポイントで調査を行っています。

朝、塩山駅で高槻先生をピックアップし、乙女高原に到着すると、すでに調査に参加する皆さんが集まっていました。集まったのは8人。高槻先生はじめ、芳賀さん、井上さん、篠原さん夫妻、奥平さん母子、そして植原です。高槻先生から調査の概要を説明していただき、さっそく調査に入りました。この調査は翌日のリンク調査と違い、「分担して行う」ことはない、「調査に参加」といっても半分以上は「見学」です。とはいえ、いつもは入れない草原の中に入れる又とない機会ですし、見学がほとんどだからこそ、参加しやすいという面もあります。また、後述しますが、ちっちゃな草まで分類するという調査シーンはある意味衝撃的です。

まずは草原の中で地図を頼りに目印のポールを探します。ポールを左下隅とし、斜面上方向に1m四方の「方形枠」を作ります。これには2m折り尺がとても便利です。折り尺のめもりを頼りに、10cm×10cmの範囲内に出てくる植物を全て記録します。全てということは、小さな草も含めて全部ということです。当然、その多くは花も付けていません。高槻先生が中心に植物を同定し、井上さんや植原も協力しました。記録は井上さんが担当してくださいました。

初めて参加された篠原さんが「花もないのに、しかも、こんなに小さな草なのに、よくわかりますね」と感心されていました。そういえば、自分も初めて植生調査を体験したときに、同じ感想を持ったことを思い出しました。タネあかしをすると、一つは、乙女高原に生えている植物リストが頭に入っていて、そのリストの中からだけ選べばいいこと。もう一つは花が咲いていなくても植物を見る習慣がつき、経験を重ねたことです。

特に二つ目については、まだまだ勉強中です。今回も、見慣れない根生葉(タンポポみたいでロゼット状に出てくる葉)がありました。葉の柄が長くて、柄の先に卵型の、ちょっとギザギサのある葉が付いています。柄が少し広がっていて、ちょうどカレースプーンのような感じです。種から芽生えて、はじめのころはこの根生葉で栄養を貯め、しかる後に茎を伸ばして花を咲かせるのですが、根生葉を見ただけでは、頭の中の「乙女高原植物リスト」の何にもヒットしません。



高槻先生が「ヒメジョオンじゃない!?!」とおっしゃいました。えっ、ピンときません。でも、お昼に車から『植物検索ハンドブック』(NPO法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団、さきたま出版会)を出して、ヒメジョオンの項を見てみたら、この根生葉が載っているじゃありませんか。びっくりしました。「へえ、ヒメジョオンの小さい頃ってこんななんだ!」

帰ってから『雑草の芽生えハンドブック』(浅井元朗、文一総合出版)で確かめたら、確かにヒメジョオンでした。隣にハルジョオンが載っていました。この二つはよく似ていて、間違われることが多いのですが、根生葉の形は全然違っていました。ヒメジョオンなんて、ありかふれた雑草です。でも、その根生葉が分からなかったのですから、灯台下暗し、まだまだ修行が足りません。

そうそう。ホタルサイコの小さいのも、なかなか分からなかったです。イネ科の小さいのなんて、いまだにまったく分かりません。反対に「あ、この小さいのはハナイカリに違いない。こっちはリンドウ!!」と分かる・・・というよりピンとくると、すごく嬉しくなりますよ。

おっと、かなり脱線しました。10cm×10cmを調べたら、10cm×25cm、25cm×25cm、25cm×50cm・・・と範囲を

広げて、出てくる植物を記録します。1m×1mまで調べたら、出てきた植物の高さと被度(1㎡の中で、どれくらいを占めているか)を記録します。そしたら、1m×2m、2m×2mまで探索範囲を広げて、終了です。次のポイントに向かいます。

午前中、4ポイントを調査し、お昼にしました。午後からの調査を始めたら7ポイント目で雨に降られてしまい、一時中断。でも1時間もしないで雨は上がったので、残りのポイントも無事、調査することができました。調査結果の整理・考察は高槻先生が一手に引き受けてくださっています。記録をパソコンのエクセルに入力するだけでも大変なのに、本当にありがたいです。

翌11日は「花と昆虫のリンク調査」なので、高槻先生には乙女高原近くの宿に泊まっていただくことにしました。せっかくだから、宿にチェックインし、鼓川温泉に二人で行きました。温泉で温まった体は、林道の涼しい風に当たっても全然湯冷めしませんでした。

乙女高原案内人「夏の案内活動」

7月23日・24日 記事：植原 彰

7月23日(土)、案内活動の初日は角田さんが引き受けてくださいました。

二日目の24日(日)はウエハラが当番でした。案内活動の具体がどうなのかレポートします。「これだったらできる」と思われたら、ぜひ立候補をお願いします。今年はコロナ感染急拡大の中での活動ですので、「乙女高原に来た人にお花のパンフレットを勧める」という活動がほぼすべてになります。「一緒に歩いて、お花の説明をする」といったことはできないので、かえって、どなたでも活動できるのかなと思います。

活動開始の目安は10時なので、9時半ころに草原に着くよう、弁当を作って家を出発しました。ところが、途中でヤマユリの大きな花がきれいに咲いているのを見つけてしまいました。昨日は見えていませんから、昨夜、咲き始めたのだと思います。道路脇の崖でした。崖にフェンスが張っており、フェンスのすきまから茎が伸びていました。そんなところなので、シカに食べられずに大輪の花を咲かすことができたのだと思います。そんなことを「察し」ながら写真を撮っていたら、遅れてしまいました。すみません。左はヤマユリの写真。



案内活動で使うグッズは乙女高原グリーンロッジの中です。この建物はもう使われていませんが、ファンクラブの備品等の保管場所、豪雨等の際の緊急避難場所として特別に使わせていただいています。

グッズは持ち運びが便利なように買い物かご2つに収められています。それと、アウトドア用のテーブルと椅子を持ち出し、ロッジの庭にセットしました。あとは、椅子に座って、来る人を待てばいいわけです。

待ち時間用に雑誌も持ってきていましたが、せっかくだから乙女高原まで来て本を読むのももったいないし、自分は都合で8/6のマルハナバチ調べ隊には参加できないので、一足先に「マルハナバチのラインセンサス調査」をすることにしました。1時間かけて、いつものコースを歩いたところ、93頭のマルハナバチを観察することができました。すごい数です。写真も撮りまくりました。

大満足の調査から戻ると、何組か「お客さん」が来ていました。「乙女高原のお花のパンフレットがありますが、お渡ししましょうか?」と問いかけると「ありがとうございます。いただきます」という答え。それがきっかけで会話が弾むこともありました。野外だし、距離が十分あれば、大丈夫です。

お腹もすいてきたので、案内用のテーブルでお昼を食べました。テーブルにちっちゃなお客さんが来ました。ゴマダラオトシブミです。

午後からは、草原内に入って外来種を抜き取る作業を行いました。遊歩道を歩いている方に誤解のないよう、「調査中」の腕章を付けて行いました。いつもは絶対に入らない草原です。見逃している植物はないか、ススキにカヤネズミの巣はないかなど、外来種以外にも目を光らせながら、かといって、できるだけ草花を踏まないように、ゆっくりと、そっと、歩いていきました。遊歩道沿いでは見つからなかったカワラマツバを見つけることができましたが、カヤネズミの巣はありませんでした。

この日は結構雑用もやりましたよ。百葉箱周辺の草を刈りました。ロッジ玄関の「掲示板」に、新たに咲き始めたお花のカードを貼りました。ロッジのホールのそうじもしました。昨日は遊歩道の草刈り作業日だったので、それに合わせてロッジの窓を全部開け放して、風を通しました。そうしたら、アブたちがこれでもかというくらい入ってきて、天井の窓からブンブン羽音が聞こえていました。そのアブたちが1日たって、ホールの床に落ちてきたのです。おびただしい数でした。ほうきで掃きました。

最後に案内人活動の日記を書いて、グッズをロッジ玄関にしまって、この日の案内活動を終わりました。

いやー、風呂が心地よかったし、夕食のビールのおいしかったこと。

～ボランティアガイドのみなさんの活躍～

7月23日～8月11日までの週末・祝日計7日間、乙女高原案内人が交替でグリーンロッジ前に待機し、乙女高原を訪れた方にパンフレットを渡したり、見所を案内したりする「夏のボランティアガイド」無事終了しました。11日は調査日と重なってしまったため、十分な案内活動はできませんでしたが、7日間でのべ20人の案内人がボランティア・ガイドを行い、記録されているだけで72人の訪問者を案内することができました。そして19人もの方が新たにファンクラブに入会されました。

日程	案内人
7月23日(土)	角田敏・角田晴
7月24日(日)	植原
7月30日(土)	角田敏・角田晴・植原
7月31日(日)	三枝・芳賀・井上・駒田・岡崎・本多・植原
8月6日(土)	角田敏・角田晴・三枝・芳賀・井上
8月7日(日)	芳賀・植原
8月11日(祝)	花と昆虫のリンク調査に

(敬称略)

～ 自然教室 ～

笛川小学校の乙女高原学習

9月2日(金) 記事：植原 彰

笛川小学校は乙女高原に一番近い小学校です。2016年にこの地域にあった4つの小学校が統合してできた、新しい小学校です。笛川小学校では毎年5年生が「総合的な学習の時間」を使って乙女高原について調べ学習を行い、その一環として、実際に乙女高原を訪れ、体験学習をしています。そのお手伝いを乙女高原ファンクラブ・乙女高原案内人が行っています。

ところが、ここ2年間、新型コロナ感染拡大や天候不順のために、子どもたちが実際に乙女高原を歩くことができていませんでした。今年は3年ぶりのリベンジだったわけですが、コロナ感染は高止まりしているし、台風11号と秋雨前線のせいなのか、雨ばかり降っています。今回も実施は危うかったのですが、なんとか実施することができました。子どもたちはとてもいい顔で乙女高原内を歩いていました。ここでは、その準備段階からレポートしたいと思います。

8月22日(月)、子どもたちの指導をすることになった三枝さん、芳賀さん、植原で乙女高原に集まりました。まずは、当日、雨の場合や、具合が悪い子が出たときのために、ロッジのホールを3人でそうじしました。大きなアブの死体が床やテーブルの上になくさんあって、びっくりしました。

その後、テーブルを囲んで、子どもの人数や指導時間を3人で確認し、どんなプログラムにするかを話し合いました。子どもたちは27人も来るので、全員一緒だと目が行き届かないし、細かいものを観察するのが全員では難しいです。また、同じルートを使うと待ち時間が生じてしまいます。そこで、子どもたちをあらかじめ3グループに分けてもらい、それぞれに案内人がついて、違うコースで観察することにしました。「ブナ爺コース」「谷地坊主コース」「草原満喫コース」の3コースとし、それぞれ三枝さん、植原、芳賀さんが担当することにしました。コースによって帰ってくる時刻が違ってしまいうので、早く帰ってきたグループから、自由に草原を歩いていいことにしました。そのほか、こまごまとしたことを決めた後、草原を一周、下見をしました。

翌8月23日(火)には、植原が笛川小を訪れ、5年生の担任の先生と打ち合わせをしました。前日、案内人で話

【乙女高原の歴史・・・授業メモ (植原)】

◆ボランティアによる草刈り (草原保全のため)◆

2022年(今年) 23年目・21回目の草刈りボランティア

2000年(22年前) 第1回草刈りボランティア…自分たちが草刈りしないと、草原が森になる!

◆スキー場のための草刈り(雪の上に枯草が出ないように)◆

2000年(22年前) 乙女高原スキー場の終了

1951年(71年前) 乙女高原スキー場オープン・・・スキー場のための草刈り開始

◆生活のための草刈り(肥料にしたり飼料にしたり)◆

明治～戦前 西保の人たちの草刈り場(恩賜林の活用)・・・肥料として、馬の飼料として

途中で大事件が起こる!(官民有区分～恩賜林)

1911年(111年前) 恩賜林(=県有林) 山梨県の面積の1/3、森林の1/2

1907年(115年前) 明治40年の大水害 峡東で死者233人、全壊・流失家屋5767戸

1877年(145年前) 天皇の土地(御料林)になった・・・立ち入り禁止・世話もできない

江戸時代 西保の人たちの草刈り場(入会地)・・・肥料として、馬の飼料として

し合ったことを提案し、最終的にどうするかは学校側で決めていただくことにしました。以前に観察指導したときは、乙女高原の歴史等も説明していましたが、乙女高原に滞在している間は、できるだけ乙女高原の自然にじかに触れさせたい…との思いで、歴史等は当日前に植原が教室に向いてお話させていただくことにしました。

8月31日(水)の4校時に、5年生の教室でお話をさせていただきました。まずは歴史の話。今年=2022年を基点として、少しずつさかのぼっていきました。

これに沿って、黒板に書きながら説明しました。下から1生活のための草刈り→2スキーのための草刈り→3草原保全のための草刈りと、目的は変わっていますが、草刈りが連綿と続いてきたことが分かります。

次に、乙女高原の今の景色と、これから季節がかわると、それがどのように変化するかを映像を見せながら説明しました。乙女高原の草刈りボランティアが毎年11月23日に行われることも紹介しました。

そうやって迎えた9月2日(金)。このところずっとぐずついた天気で、これからもそれが続く予報。朝は明るかった空も、だんだん暗くなり、9時過ぎには雨が降り始め、子どもたちを迎える9時半少し前には本降りになりました。雨具を着て、覚悟を決めたのですが、子どもたちが到着するころには雨が上がり、結局、子どもたちが帰るまで雨には降られませんでした。本当にラッキーでした。

一昨日に話すことは話してあったので、案内人の自己紹介をした後、さっそく草原の中を歩き始めました。植原が担当した谷地坊主コースは10人。草花を紹介しようと「お花のフィールドガイドを出して」と言ったら「教室に忘れてきちゃいました」という子が続出。仕方がないので、忘れずに持ってきている子のフィールドガイドをまわりの子と一緒に観てもらいました。フィールドガイドに載っているお花には番号が付いています。「この花は何番だ?」と尋ねれば、「10番じゃないの?」「いえ、20番でしょう!」と話し合いができます。花の形や色、咲く時期を手掛かりに調べてもらいました。マルハナバチが登場すると、大盛り上がりです。「刺さない!?!」と聞きながら、恐る恐る手を出す子がいます。意外かもしれませんが、マルハナバチはハチですが、めったなことでは人を刺すことはありません。

私が子どもたちに強く伝えたかったことは3つです。

一つは、ツツジコースのシラカバです。「ここは23年前にボランティアによる草刈りが始まったときには若い森でした。この斜面はスキー場として使われなくなっていたからです。23年前にそれらの木を切ったら、レンゲツツジが息を吹き返し、花の時期には斜面全体が真っ赤に見えるくらいになりました。ここに3本ほどシラカバの木がありますが、その時に切らずに残しておいた木です。もし、23年前に切らなかつたら、この高さの森になっていたはずです」

二つ目は、閉鎖した遊歩道です。「ここはもともと遊歩道でしたが、雨が降ると川のようになってしまう、土まで流されてしまっていました。だから、23年前に刈った草を入れて、遊歩道として使わないことにして、草が生えてくるのを待ちました。23年経って、こうなりました」

子どもたちから「今歩いている道にも枯草が敷いてあるね」と気づきが出されました。「いいところに気づいたね!今も草刈りのときに刈った草をこのように遊歩道に敷いて、土が流れないようにしているんだよ」



三つ目は谷地坊主の成り立ちです。話の中味は省略しますが、乙女高原のいろいろな条件がうまくかみ合って、谷地坊主が作られていることを話しました。「奇跡だね」と言ってくれる子がいました。

今回、「各コースとも1時間半をめどに歩いて、ロッジに戻ったら休み時間を取って、個人で自由に草原内を歩き回れる時間をとろう」という計画を立てました。谷地坊主コースの中に、「ゆうれいくさを見たよ」という子がいたので、自由時間に案内してもらいました。そこにはなんとギンリョウソウモドキ(別名アキノギンリョウソウ)がありました。「秋に咲く、ギンリョウソウにそっくりな植物がある」という話は聞いていましたが、乙女高原で見たのは初めてでした。子どもたちが見つけてくれたわけですから、それがとてもうれしくて、子どもたちが帰る前に案内人が一人一言ずつあいさつをしたのですが、その中で紹介させていただきました。

三枝さんのコースと芳賀さんのコースも、それぞれ楽しい体験をいっぱいしたようです。なんとミヤマクワガタのオスを見つけた子もいたそうです!!

皆さんも機会があったら、ぜひ子どもたちと一緒に歩いてください。楽しいですよ。

～ 乙女高原観察記録 ～ 調査三昧! 8月15日の乙女高原

8月15日 記事:植原 彰

「どうもチョウ(特にヒョウモンチョウの仲間)が少ないなあ」と、とても気になっています。そう思って、昔のメールマガジンをひっくり返してみたら、去年8月14日配信の459号に「チョウのラインセンサス調査」レポートが載っていました。(メールマガジン459号: <http://fruits.jp/~otomefc/maga459.html>)

要約すると、チョウのラインセンサス調査※の結果を(ヒョウモンチョウ類の個体数/全チョウ個体数)で表すと、2015年7月31日には(65/73)、2021年8月1日には(31/51)だったというものです。「しまった! 今年も8月1日あたりに調査しておけばよかった!!」とは後の祭り。とはいえ、もう過去には戻れないので、「今、気が付けただけ、もうけもの!」と思ひ返し、乙女高原に行ってきました。

※チョウのラインセンサスはこんなルールで行っています。

- ・コースは、入り口→森のコース→草原のコース→ツツジのコース→湿地→「島」東脇→入口。1時間をめどに周回する。
- ・コース両脇2mの範囲で見られたチョウ類をすべて記録する。
- ・小さくて見つけにくさが予想されるシジミチョウ科とセセリチョウ科は集計から除外する。調査した結果は以下の通りでした。

・2022年8月15日 9:10~10:10 計 35頭

・アゲハチョウ科: 6頭(うち5頭は確実にキアゲハ)

・シロチョウ科: 4頭(モンシロチョウかスジグロシロチョウか見分けられません。キチョウも1頭いました)

・ヒョウモンチョウ類: 7頭(おそらくギンボシヒョウモンが1頭、ツマグロヒョウモンが1頭。あとは不明)

・アサギマダラ: 11頭 ・ジャノメチョウ: 6頭 ・ヒメアカタテハ: 1頭

ということで、今年だけ調査時期が2週間ずれています(ヒョウモンチョウ類/全チョウ)が2015年(65/73)→2021(31/51)→2022(7/35)という結果です。チョウ全体もヒョウモンチョウ類も激減しています。おそらく2週間前に調査したとしても、同じような結果だったと思います。

来年も同じ傾向が続くのであれば、乙女高原の生物多様性にとって、大問題だと思っています。



続けて、「1人マルハナバチ調べ隊」を行いました。

もともとマルハナバチ調べ隊というイベントは、イベントを通してマルハナバチの調査方法を知ってもらい、各自でマルハナバチ調査を行い、その結果をつなぎ合わせて、乙女高原のマルハナバチの動向の全体像を探ろうという構想で行われています。残念ながら、現実はそうはなっていません。

今年の夏は、たくさんのマルハナバチが花から花へと飛んでいるのがうれしくて、ウエハラが7月24日に「1人マルハナバチ調べ隊」を行い、93頭を確認しました。マルハナバチ調べ隊本番の8月6日、結果は18頭でした。植原は不参加でした。井上さんのレポートを読むと霧雨が降っていたようです。変温動物であるマルハナバチは天気が悪いと活性が落ち、実態が調査結果に反映されない可能性があります。そこで翌7日、ウエハラが「1人マルハナバチ調べ隊」を実施したところ、75頭でした。

で、今日の調査です。計65頭がカウントできました。調査結果がまとまりましたら、報告します。

お昼を食べた後、これも気になっていた外来種の抜き取りを行いました。なるべく誤解されないよう、腕に腕章を巻いて行いました。

梅雨明けごろはヒメジョオンが目立っていて、遊歩道の草刈りをした7月23日に集中して抜き取りを行いました。ここに来て、黄色い大きな花のアレチマツヨイグサが目立つようになりました。案内活動と並行して取っていただいていたのですが、あまりにも目立っていたので、ロープから注意深く中に入り、抜き取りました。重量を計ったところ、合計23kgになりました。

うれしかったのは、草を抜き取っているウエハラの様子を見て、「花を採ってはいけません」と話しかけてくれた方がいたことです。「外来種を採っているんです。でも、注意してくださり、とてもありがたいと思います」と返しておきました。

最後に、全遊歩道を歩いて(乙女高原の遊歩道は「一筆書き」ができず、どうしても一部、重複して歩かなければならないのですが)、見られたオミナエシの本数を数えました。双眼鏡と計数機が役に立ちました。全部で802本でした。2010年8月8日1本→2014年8月2日3本→(シカ柵設置)→2017年8月1日409本→2021年8月7日471本→今年2022年802本と、確実に増えていることがわかります。今日は調査三昧の1日でした。

～ 視察報告 ～ 長野県の高ボッチと長峰山

7月20日・21日 記事: 植原 彰

7月下旬、長野県に行ってきました。メインの目的は、以前、当メールマガジンで紹介した※「蝶を指標とした、つまり、蝶に選ばれる里山管理」をしている長峰山の活動を見せていただくことでしたが、その手前にある高ボッチにも行ってきました。 ※メールマガジン 474(2022.4.13)

まず、高ボッチ。森の中の狭い林道を30分くらい車で登ったら、急に視界が開け、ササ中心の草原が広がっていました。標高は約1,600m。ほぼ乙女高原と同じ標高です。お昼ごろ、駐車場に着いて、ビジターセンターを訪ねました。ここは「でいだらぼっち館」という名称なんだそうです。そこには高ボッチを紹介するパネルがあったり、グッズやコーヒーなどを販売するコーナーがありました。リニューアルされた感じでした。スタッフさんも一人いました。そこに置いてあったチラシを見たら、ちょうど今日が年に一度の「みんなで守ろう 高ボッチ高原の自然」の日でした。一般公募し、午前中は外来種の駆除を、午後からは自然観察会をするのだそうです。ここまで登ってくるまでにたくさんの対向車とのすれちがいが大変だったのも、「あの人、役所の人だよ」という作業着を着ていらっしゃる方が4人でお弁当を食べていたので「何の用なんだろう」と気になっていたのも、すべて合点がきました。聞いたら「塩尻市自然保護ボランティア」の方が観察会を運営なさるとのことだったので、頼んで、観察会に参加させていただくことにしました。開会は塩尻市役所の職員の方が行い、そろいの緑の帽子をかぶった自然保護ボランティアの方々に引き継がれました。

観察会はセンターのすぐ前にある、金網のシカ柵の中を歩くことから始まりました。テニス・コートくらいの広さの柵ですが、中は様々なお花が咲き乱れ、それらにたくさんの蝶やマルハナバチが訪れていました。花は乙女高原で見られるメンバーとほぼ同じでしたが、ハクサンフウロ、ノハナショウブ、ユウスゲ、イブキトラノオ、それからまだ咲いていなかったクサレダマが目新しかったです。反対に、クガイソウの姿がなかったのは意外な感じでした。それから、乙女のコウリンカは花びらが細くて、下に反り返っているのが特徴的な花ですが、高ボッチのコウリンカはそれに比べ花びらが太いし、あまり反り返っていないし、変な感じでした。

その後、柵を出て、展望台に向かって歩きながら観察しましたが、花の数が少ない感じがしました。理由は2つありそうです。

一つはシカ。あれだけ「シカ柵内では花がいっぱい咲いて、それに訪花昆虫たちがいっぱい来ている」様子が高ボッチに来ている皆さんに「見える化」されているのだから、乙女高原のように、もっと広いシカ柵を設置することを考えればいいのに・・・と思いました。高ボッチの全エリアをシカ柵化することはおそらく無理だと思います。一部をシカ柵化することによって、「シカ柵があればこうなる」「なければこうなる」という比較ができ、それはそれで非常に価値があることだと思います。



もう一つは草刈り。夏場も草刈りしているエリアがあるそうです。そのせいか、そのエリアは草丈が低く、草たちの勢いがないように感じられました。乙女高原で行った「草刈り実験」でも、夏の草刈りが草たちの生育に大きな影響を与えることが分かっています。

展望台からの眺めは絶景でした。諏訪湖が見えます。富士山まで見えます。振り返るとまだ雪が残るアルプスの山々が見えました。

でいだらぼっち館前に戻って、解散でした。希望者には塩尻市によって送迎の車も用意されていたようです。自然保護ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

※高ボッチの自然保護ボランティアについては以下の動画を参照してください。

https://www.youtube.com/watch?v=scQm_04X00I

それからしばらくの間、一人で歩き回りました。夏の間、牛の放牧場として利用されているエリアもありました。なんと、草競馬場までありました。駐車場からホザキシモツケがいっぱい咲いているのを横目に見ながら下ると、ヒョウタン池という、トノサマガエルがいっぱいいる池がありました。高ボッチから下ると、崖の湯温泉に出ます。ここに宿泊しました。木の匂いのするお風呂と、山菜豊富な美味しい料理でした。

翌朝、崖の湯を出発するときはそうでもなかったのですが、途中から本降りになり、風まで出てきて、どうしようと思いましたが、雨も天気のうちです。最悪、雨の中、一人で歩きまわればいいやと思って、現地に向かいました。

長峰山の里山管理を行っているNPO「森倶楽部21」の永田さんたちと待ち合わせたのは、「蝶の森」すぐ下の駐車場でした。もともとこの日は蝶の森での作業日でした。それに合わせて来訪し、作業の様子を見学させていただきながら、いろいろ説明してもらおうという計画でした。ところが、雨で作業は中止。それでも5人ものメンバーが集まってくださいました。5人を貸し切りさせてもらった感じです。

まずは蝶の森。小さなピークの小さな草原でした。聞けば、ここに観光乗馬園があったとのこと。それが放棄されて藪だらけになってしまったので、「開墾」して、「土返し」をし、この地にもともと生えていた草花を復活させたんだそうです。まわりの藪も払い、蝶も通りやすいような、風通しのよい雑木林を目指して管理しているとのことでした。聞かなければ、目の前の草地と雑木林を見



ただけでは、こういった「土地の履歴」は分からないなあと思いました。なんと、雨は上がってしまいました。

次に向かったのは、長峰山の山頂。とても大きなモニュメントととても高い展望台がありました。きっと麓からでも見えるよう、木々に邪魔されず遠くのほうまでも見えるように作られたのでしょう。草原になっていましたが、一部が芝生のように草丈が極端に短くなっていました。パラグライダーやハングライダーの滑走路なんだそうです。ここには草原特有の草花は見られませんが、周囲にはカセンソウやキキョウが咲くエリアがありました。峰の北側にはワラビがいっぱい生えているエリアもありました。さっきの蝶の草原もそうでしたが、ワラビがたくさん見られるのは、おそらくシカの影響と思われる。ワラビはシカが食べない草なので、「シカが増えるとワラビも増える」ということになります。シカの影響を考慮しながら、「どのような草原の姿を目指していくのか」多くの人や団体と妥協点を見出していくのは難しそうだなあと思いました。

ほかにも堤平、水田跡地、天平自然園を見せていただきました。一つ一つのエリアはそんなに広くないですが、たくさんエリアがあってそれぞれをそれぞれのエリアの特徴に合わせて管理していくのは大変そうです。

地域の人たちが大切にしている矢ノ沢山の神社や分教場跡も見せていただきました。分教場跡の部屋を借りて、倶楽部の備品等を保管しているんだそうです。神社には、どういわけかなナフシがいっぱいありました。分教場の「教室」にはコウモリの糞がたくさん落ちていました。山の中のパン屋さんでおいしそうなパンを買い、お寺の境内をお借りしてお昼ご飯を食べました。

今日の作業は雨で中止になったのに、その雨は早々に上がってしまいました。倶楽部の皆さんを貸し切り、倶楽部の活動場所全部をていねいに説明していただくという、贅沢な1日を過ごすことができました。

「他所の土地を見せてもらうと、自分の土地のことがよくわかる」ということがあります。今度は森倶楽部 21 の皆さん、ぜひ乙女高原においでください。

※長峰山で蝶を指標として里山保全活動をしている森倶楽部 21 については以下のサイトに。

<https://ja-jp.facebook.com/morikurabu21/>

You Tube 配信 「自然観察入門」

植原さんが「山梨 CATV」とコラボして「自然観察入門」とも言える動画を作っています。ケーブルテレビの番組として放映されたものを放映後、ユーチューブに投稿されています。

自然観察をするときのヒントが満載ですので是非ご覧ください。（動画は同封チラシの QR コードから見るができます）

町の駅やまなし常設展示

JR 中央線・山梨市駅北口にある「街の駅やまなし」のスペースをお借りして、乙女高原展を開催しています。掲示板 1 枚と長机 1 脚だけのミニミニ展ですが、毎回テーマを決めて 1~2 か月程度で展示替えしてきました。ただいまシーズン 32 「乙女高原の秋の花」展を開催中です。山梨市駅近くにおいでの際は、覗いてみてください。

なお、乙女高原で撮った写真、乙女高原をテーマにしたオリジナル作品（絵画、詩歌）等ありましたら、ここで展示させていただきます。展示の方法、展示スペース等については要相談です。



乙女高原ファンクラブ活動予定

●草刈りボランティア準備

11月12日（土）9:00～ 草刈りの事前準備をします。

●第21回草刈りボランティア

11月23日（水・祝）9:30～ *雨天の場合27日（日）に延期

今年は3年ぶりに広くボランティアを募集して実施します。

*詳細は同封のチラシをご覧ください。

●乙女高原自然観察交流会

集合：午前9時 道の駅「はなかげの郷 牧丘」

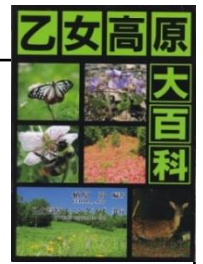
持ち物：弁当・水筒・観察用具・防寒着

*今後の予定はホームページでご確認ください。



イラスト 高槻成紀さん

●今号は編集を鈴木辰三、校正を井上敬子さん、植原 彰さんが行いました。今後、山梨市社会福祉協議会の印刷機をお借りして芳賀月子さんと三枝かめよさんが印刷をし、芳賀月子さんに発送作業をしていただく予定です。約250通がこうして皆様のもとに届けられます。



乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら370円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,370円送金してください。

乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』→[在庫切れ](#)

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドIII スミレの観察のおともに『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには…「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というフックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

今号は普通会员のみにお送りしています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ



ホームページ



観察ブログ



活動ブログ



乙女高原後援会
フェイスブックグループ